

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 韮崎市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化事例研究
3. 研究タイトル : 魅力あふれる小規模校高度学習の推進
4. 研究課題 :
- (1) 先進的ICT環境による、発表力の向上と個に応じた学力向上に向けての授業実践
 - (2) 少人数での英語科教育の推進
 - (3) 外部講師による実技教科等の技能の向上（音楽、図工、家庭、体育、特別活動等）
 - (4) スクールバス等を活用し、中学校区を単位とする学校間の積極的な交流
 - (5) 地域と連携した学習支援体制づくりと学校の地域への貢献を図る
 - (6) 少人数集団である小学校から、大人数の中学校へ進学した際、人間関係が築けず不登校になることの防止

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

小規模校のメリットを生かし、デメリットを解消・緩和することにより、児童減少に歯止めをかけ、小規模校が活性化するよう本市ならではの特色ある教育を推進する。小規模校ゆえにスタッフも少ないため、地域の教育環境を最大限に生かしながら、教育実践を積み、グローバル人材の育成や次代を生きる力を育んでいく。

具体的な研究内容としては、ICT活用による学力向上、英語力の育成、地域人材や専門家を活用した実技技能等の向上、地域生涯学習の場での学習成果の発表、学校間の教科学習にまで踏み込んだ連携による交流、本事業をとおしての不登校の防止等である。

(2) 調査研究の実施状況（平成28年度）

6月	○ 事業担当打合せ会議
7月	○ 学習支援アドバイザー打合せ会議 ○ 穂坂小：既存ICT機器の接続法講習会開催 ○ 穂坂小：外部講師による茶道教室の開催（6学年） ○ 韮崎北西小：ICT推進プロジェクト・スクールミュージアムプロジェクトの編成
8月	○ 学習支援アドバイザー打合せ会議 ○ 穂坂小・韮崎北西小：無線LAN環境整備・iPad導入・印刷環境の整備 ○ 穂坂小・韮崎北西小：ICT機器活用講座「ICTを活用した授業づくりを考える」開催
9月	○ 穂坂小・韮崎北西小：大型TV・プロジェクターとアップルTVのペアリング、iPadへアプリ導入等の設定 ○ 穂坂小・韮崎北西小：教職員ICT活用アンケート（意識調査・活用力調査）実施 ○ 穂坂小：iPad使用法講習会開催 ○ 韮崎北西小：ICTプロジェクト校内研究会「iPad活用基礎研修」実施

10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習支援アドバイザー打合せ会議 ○ 穂坂小：ICTを活用した研究授業（国語・体育・総合）の実践 ○ 穂坂小：外部講師による茶道教室の開催（2学年・クラブ活動） ○ 穂坂小：地域交流活動として葦崎東ヶ丘病院へブラスバンド慰問活動 ○ 穂坂小：地域交流活動として穂坂農協祭りに参加しブラスバンド及び踊り出演 ○ 葦崎北西小：スクールミュージアムプロジェクトにより空き教室を「言語部屋」「算数部屋」として整備 ○ 葦崎北西小：外部講師活用による作曲に係る音楽授業の実施 ○ 葦崎北西小：iPad操作講習会開催 ○ 葦崎北西小：ICTを活用した研究授業（国語）の実践
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 穂坂小：地域人材講師の指導による菊づくりと地域に開かれた学校づくりとして地域の方や保護者を招待し「菊まつり」を開催 ○ 穂坂小：葦崎市生涯学習フェスタに地元公民館の演目として出演し、ヒップホップダンスを披露 ○ 穂坂小：外部講師による生け花教室の開催（2学年・クラブ活動） ○ 葦崎北西小：外部講師（写真家）による虫に関する生活科授業の実施 ○ 葦崎北西小：ICTを活用した研究授業（国語）の実践 ○ 「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」第1回推進会議
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習支援アドバイザー打合せ会議 ○ 穂坂小：保健集会においてインフルエンザの予防について、養護教諭及び児童によるパワーポイントを使ったプレゼンの実施 ○ 穂坂小：小中連携事業として、葦崎東中学校へ6年生が訪問し、中学1年生と英語の交流授業を実施 ○ 穂坂小：iPad操作講習会開催 ○ 穂坂小：外部講師による茶道教室の開催（3学年・クラブ活動） ○ 穂坂小：2学期終業式においてプロジェクターを活用した生徒指導や表彰伝達 ○ 葦崎北西小：外部講師によるリニアに関する理科授業の実施 ○ 葦崎北西小：小中連携事業として、葦崎西中学校教諭による技術家庭科の出前授業の実施 ○ 葦崎北西小：小中連携事業として、6年生が葦崎西中学校を訪問し、授業の参観、合唱練習、図書館体験、グラウンドを使用するなどの中学校の施設を体験
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習支援アドバイザー打合せ会議 ○ 穂坂小：本事業推進会議委員である大村智博士が来校し全校児童と交流 ○ 穂坂小：外部講師による陸上練習実施（低・中・高学年） ○ 穂坂小：地域の方や保護者と「ふれあい教室」を開催 ○ 葦崎北西小：iPad操作講習会開催
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習支援アドバイザー打合せ会議 ○ 教職員ICT活用アンケート（意識調査・活用力調査）実施 ○ 児童アンケート実施 ○ 穂坂小：iPad実技講習会開催 ○ 穂坂小：外部講師による生け花教室の開催（5年生） ○ 穂坂小：小中連携事業として、葦崎東中学校の校長による「中学進学に向けての心構えについて」の講話を開催（6年生） ○ 葦崎北西小：外部講師による生け花教室の開催（クラブ活動）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 葦崎北西小：円野町生涯学習の集いにおいて3年生が「花笠音頭」を披露 ○ 「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」第2回推進会議

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<p>(1) 先進的ICT環境による、発表力の向上と個に応じた学力向上に向けての授業実践</p> <ul style="list-style-type: none">○ ICT環境の整備が遅れていた学校に校舎のどこからでもWi-Fiが利用できるよう無線LAN環境の整備とiPadを購入(穂坂小7台・葦崎北西小11台) しグループ学習等で活用できるように整備した。○ ICTを活用した授業実践をしてきた教員OBである学習支援アドバイザーが、2校を週1回ペースで訪問し、ICT機器を活用した講座や研修会を開催、授業での活用を支援した。<ul style="list-style-type: none">・ ICT活用講座 (のべ2回)・ iPad活用研修 (のべ6回)○ ICTを活用した授業実践例<ul style="list-style-type: none">・ 国語科での授業 iPadを三脚で児童の前に設置し、児童の音読の様子や表現を録画、児童に見せながら主題に迫る授業で活用。<ul style="list-style-type: none">・ 算数での授業 デジタル教科書を使用し、図形や計算方法などについて視覚から入る授業を実践し理解を深めた。・ 社会科での授業 地図アプリを活用し航空写真で地形を学んだ。・ 総合学習での活用 福祉についてPCで児童が調べ学習として活用、また、タブレットPCを用い、ブラスバンド練習において各パートの旋律を流しながら各自がパート練習できるよう工夫し活用。<ul style="list-style-type: none">・ 体育での活用 班毎に課題を持った表現運動の練習として、iPadで録画再生を行い、自分たちの演技の工夫に活用。・ 英語科での電子黒板を活用した授業 学級の半数以上の児童が教師の手助けなしに、視覚的・聴覚的にインプットされた言葉をI can, I want to be の文法に則った形で話すことができるようになった。また、ほとんどの児童が友達に What time~, などを使い、1日の様子について質問することができていた。 これらのICTを活用した授業により、児童の学習への興味や関心が高まり、意欲的な態度が見られた。○ 教職員、児童へICT活用アンケートを実施<ul style="list-style-type: none">・ Wi-Fi環境の整備、iPadの導入により授業での活用場面が増え、その効果を多くの教師が実感している。<ul style="list-style-type: none">・ 当初は、あまりできていない教師が年度末には操作に慣れ使えるようになり、変化が見て取れる。教師の活用力が着実に上がった。・ 児童のICTに関する興味関心は高く、全体的に良い傾向にある。
<p>(2) 少人数での英語科教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none">○ 担任主導で3・4年生は外国語活動を週1時限、5・6年生は英語科を週2時限実施。ALTを有効活用しながらオールイングリッシュの授業を展開。○ 少人数でもメリットを生かし、多くの児童が電子黒板を活用するなかで様々なゲームやチャンツに挑戦している。○ 6年生において相手が話す3文程度の英語を理解し、3文程度で表現できる児童の割合が約83%であった。特に、Hi, Friends! 2 Lesson5 「Let's go to Italy」では、「行ってみたい好きな国を紹介しよう」をテーマに楽しく取り組み、目標を達成した。

<p>(3) 外部講師による実技教科等の技能の向上（音楽、図工、家庭、体育、特別活動等）</p> <p>○ 専門的な知見を有する外部講師を活用し、少人数であることのメリットを生かしたきめ細かな指導をしてもらうことにより、豊かな感性や、確かな技術・知識の習得を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作曲に係る音楽の授業（葦崎北西小2回） ・ 茶道教室の開催（穂坂小3回） ・ 写真家による虫に関する生活科の授業（葦崎北西小1回） ・ リニアモーターカーに関する理科の授業（葦崎北西小1回） ・ 陸上・体力づくり教室（穂坂小3回） ・ 生け花教室の開催（穂坂小2回・葦崎北西小1回） <p>○ 外備講師による授業は、学級担任の指導だけでは得られない違った学びが感じられ、児童にとって新鮮な驚きがあり、学習に向かう姿勢の高まりが感じられた。</p> <p>○ 5・6年生において、外部講師による授業で様々な体験をした結果、86%の児童が将来の夢ややってみたいことを作文に思い描くことができた。また、Hi, Friends! 2 Lesson 8 「What do you want to be ?」の学習では、自分の夢や希望をスピーチすることができた。</p>
<p>(4) スクールバス等を活用し、中学校区を単位とする学校間の積極的な交流</p> <p>○ 市所有のスクールバスを活用し、進学する中学校へ出向き、授業を体験したり施設に慣れることにより中学入学への不安解消を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 穂坂小学校の6年生が葦崎東中学校の1年生の英語科の授業に加わり、英語で自己紹介をするなど交流を図った。 ・ 葦崎北西小学校から葦崎西中学校へスクールバスで出向き、前半は施設見学や授業の様子を参観した後、グラウンドの短距離レーンを使って50m走を計測し、整備された施設を体験した。後半は音楽室を使用し合唱練習を行った。また、図書室も訪問し司書から指導を受け、小学校との読書の違いが経験できた。（6年生） ・ 訪問後の作文では、ほとんどの児童が校舎の素晴らしさ、教室や生徒の多さなどに驚きながらも中学進学をととても楽しみにしている気持ちが書かれていた。 <p>○ 中学校の教諭による出前授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 葦崎西中学校の教諭が葦崎北西小学校に訪問し、6年生に技術家庭科の授業として木工分野で行われる本立てを作成した。小学校教諭の授業と違う雰囲気を体験し、中学校の授業への興味関心が高まった。 <p>○ 学区内の小中学校での連携交流を体験することにより、先輩である中学生からたくさんのお話を聞いてみたいと期待感を表している児童もあり、中1プロブレムの不安は払拭されていた。引き続き中学校への不登校者数ゼロを継続していく。</p>
<p>(5) 地域と連携した学習支援体制づくりと学校の地域への貢献を図る</p> <p>○ 穂坂小学校では、地域人材を活用し5年生を中心に菊づくりをしている。育成された菊は市役所玄関や文化ホール、穂坂農協、地元郵便局、駐在所などに展示し披露した。また、「菊まつり」として地域住民や保護者等を児童が招待し、学年発表などにより学校活動の成果を地域に発表した。</p> <p>○ 葦崎市生涯学習フェスタに穂坂小学校の児童が、穂坂公民館の出演演目として、ヒップホップダンスを発表し好評を博した。</p> <p>○ 穂坂小学校とPTA、穂坂公民館が共催で「ふれあい教室」を開催し、木工教室、繭玉教室、ペットボトルロケット教室等7つのブースに分かれ、地域住民等と親子3代でそろって活動し交流を図った。</p> <p>○ 本事業の推進会議委員であり、2015年ノーベル医学・生理学賞を受賞した大村智博士が穂坂小学校を訪問し、博士の話の聞いたり、ノーベル賞メダルを見たり触ったりしながら児童と交流した。児童の中には「大村先生のように、人のためになるようなことをしようと思った」との感想が聞かれた。</p> <p>○ 葦崎北西小学校の3年生が地元円野町の生涯学習の集いの場で、運動会に向け練習した「花笠音頭」を披露し、地域の方々と交流した。</p>

(6) 少人数集団である小学校から、大人数の中学校へ進学した際、人間関係が築けず不登校になることの防止

- 小規模校の児童が違和感なく中学校へ進学できるよう、小中連携により6年生が中学校の授業や施設体験をすることにより不登校にならないよう交流を図った。
- 中学校を体験した6年生は、教科ごと先生が違い、小学校で学習した内容を発展して学習していくことや、施設を見学することで小学校との違いを体験的に理解できた。これらの活動を通して、中学校に進学したときの自分が想像することができ、先を見通した活動ができるようになった。
- 少人数のメリットを生かし、担任が個々の児童の家庭状況や学習状況を把握して、家庭訪問等を行い、きめ細かな指導・支援が実施できている。また、職員が共通理解のもと全校体制で指導にあたるため、不登校ゼロが継続できている。

(2) 成果物等

- ・ ICT機器活用講座「ICTを活用した授業づくりを考える」
- ・ ICT機器活用ハンドブック
- ・ iPad操作講習会資料

(3) 今後の取組予定

- ・ ICT機器の活用では、iPadを増設し、児童自身がさらに操作に慣れ、授業においてICT機器の効果的な活用を進め、授業モデルを確立していく。
- ・ ICT機器の操作については、教職員の個々の力量に差があるため、研修を重ねたうえで基礎的な操作力の向上に重点を置き、教職員が意欲的にICT機器を活用できるよう取り組んでいく。
- ・ ICT利活用の知識・技能を記録していき、人員の入れ替わり後も引き継いでいけるよう取り組んでいく。
- ・ 地域との連携については、穂坂小学校では、これまで積み上げてきた成果を継続していき、葦崎北西小学校は、地域のお祭りなどの行事に積極的に関わり地域との交流を増やしていく。
- ・ 学校間連携では、学校間でのネットワークを構築し、小規模校同士の交流を推進していく。
- ・ 少人数集団でもスムーズに中学校に入学できるよう、28年度の中学校との交流内容を精査し、さらなる交流を図っていく。